

普及活動現地情報

「農業現場では、今」



【西牟婁振興局】重点プロジェクト【持続的なうめ産地の発展】～うめの摘心講習会を開催～

令和5年4月号

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

	頁数
I 海草振興局	1
1. 和海地方農業士会総会を開催	
2. 和海地方4Hクラブ連絡協議会総会、第1回定例会を開催	
II 那賀振興局	2
1. 特定外来生物クビアカツヤカミキリ巡回調査を実施	
2. 那賀地方生活研究グループ連絡協議会が役員総会・研修会を開催	
III 伊都振興局	3-4
1. 重点プロジェクト【新品種導入と担い手の育成による柿産地の活性化】 ～農業技術講習会果樹コース（かきの摘蕾講習会）の開催～	
2. 令和5年度伊都地方農業士連絡協議会総会、研修会の開催	
3. クビアカツヤカミキリ予防対策（食入防止）のネット被覆実証	
4. 農業技術講習会野菜コース（夏秋野菜の栽培管理）の開催	
IV 有田振興局	5-6
1. 令和5年度有田地方農業士協議会総会を開催	
2. うめ「南高」の摘心処理講習会を開催	
3. 有田農業女子プロジェクト・アグリビギナー合同研修会を開催	
4. 令和5年度有田地方4Hクラブ連絡協議会総代会及び技術交換大会を開催	
V 日高振興局	7-8
1. 日高地方農業士会令和5年度総代会を開催	
2. うめ「南高」の低樹高化技術による省力化現地研修会を開催	
3. 青年農業者能力向上実践講座「農トレひだか」第1回セミナーを開催	
4. えんどう採種ほ場現地検討会を開催	
VI 西牟婁振興局	9
1. 重点プロジェクト【持続的なうめ産地の発展】～うめの摘心講習会を開催～	
2. 西牟婁地方農業士連絡協議会が総会・研修会を開催	
VII 東牟婁振興局	10
1. 田植え体験を開催	
VIII 農林大学校	11
1. 令和5年度入学式 11名の学生生活が始まる	
2. 1年生が県内の試験研究機関など（9か所）で研修	

I 海草振興局

1. 和海地方農業士会総会を開催

令和5年度和海地方農業士会総会が4月14日に海南市農村婦人の家で開催された。今回も新型コロナウイルス対策のため役員と理事に限定し、18名で行った。松本会長の挨拶と海草振興局農林水産振興部の中谷部長の祝辞の後、令和4年度の活動報告、会計報告、新年度の活動計画などの議案は全て可決された。

総会後の研修会では、農業環境・鳥獣害対策室の岩倉副主査から「侵入警戒有害動植物と発見時の対応について」、経営支援課の岡室主任から「県農業士会令和4年度県外研修報告」について講演があった。新たな病虫害が迫り来る危機や、慣れや油断が耐性菌の発生につながった県外の事例に参加者が興味深く聞き入っていた。



総会

2. 和海地方4Hクラブ連絡協議会総会、第1回定例会を開催

令和5年度和海地方4Hクラブ連絡協議会総会が4月27日に海南市農村婦人の家で開催され、クラブ員10名が出席した。志賀会長による挨拶と海草振興局農業水産振興課の宮向課長の祝辞の後、令和4年度の活動報告、会計報告、新年度の活動計画などの議案は全て可決された。新年度も、若手農業者ならではの新しい発想に基づき、地域農業活性化に向けた取り組みを予定している。

総会後は、第1回の定例会が開催され、令和5年3月の熊本視察研修参加者から、研修で得た知見がクラブ員に共有された。また、本年度のプロジェクト活動を検討するために、以前の定例会で抽出した「農業経営における課題」について議論し、加工品開発や生産効率向上の取り組みについて、それぞれの経験をもとに活発な意見交換が行われた。今後も、4Hの人脈を活かしながら、相互に農業経営における課題解決のために取り組んでいくことが期待される。



令和5年度 新役員



定例会の様子

Ⅱ 那賀振興局

1. 特定外来生物クビアカツヤカミキリ巡回調査を実施

4月25日、那賀地方病害虫防除対策協議会（林 稔幸会長、管内関係機関で構成）ではクビアカツヤカミキリの園地巡回調査を行った。

本年は、昨年被害が発生した園周辺を重点的に調査するため、管内5地区の被害園を中心に半径1kmの悉皆調査を行った。6名が3班体制で52園地のもも、すもも、うめを調査したところ、4園にてもも5樹、うめ1樹の被害が確認され、いずれも昨年被害が発生した園であった。周辺園への被害拡大は見られず、夏期の一斉防除や早期発見・早期捕殺による防除対策が効果を発揮していると思われる。

今後もさらなる「警戒の目」を増員するため、4月にはJA紀の里組合員あて、6月には岩出市・紀の川市の全世帯向けにクビアカツヤカミキリ啓発チラシを配布し、警戒に当たる。



株元を中心に調査

2. 那賀地方生活研究グループ連絡協議会が役員総会・研修会を開催

4月27日、那賀地方生活研究グループ連絡協議会の役員総会・研修会が開催され、会員16名と関係者が出席した。議案は全て原案どおり可決され、紀の川市の坂口富子氏が会長に再選された。

総会後の研修会では、県消費生活センター 消費生活相談員 渡辺富美氏による『消費者トラブルの最新情報』と題した講演が行われた。

研修会では、「契約はどの時点で成立するのか」「購入した服の返品はできるのか」といったクイズに挑戦した後、具体的なトラブルの事例について説明を受けた。

講師からは「食品や訪問買取は、以前はクーリングオフの対象外だったが、消費者から多くの相談が寄せられた結果、現在は対象となっている。皆さんも何かあった時は、泣き寝入りせず消費生活センターに相談してほしい」と話があった。

参加者からは「高齢者が巻き込まれるトラブルも多いので、研修会の内容を参考に日々の中でも注意していきたい」といった声が聴かれた。



令和5年度の新役員紹介



講師による研修

Ⅲ 伊都振興局

1. 重点プロジェクト【新品種導入と担い手の育成による柿産地の活性化】～農業技術講習会果樹コース（かきの摘蕾講習会）の開催～

4月20日、農業水産振興課では、就農意欲があり基礎技術を習得したい方への技術・経営力向上のため、かきの栽培技術をテーマにした講習会を開催し、19名が受講した。今回は、主に春の開花期までの作業として、かきの摘蕾について講習会を実施した。

はじめに、森口普及指導員から、かきの歴史、主要品種の導入、結果習性について説明し、続いて、摘蕾、病害虫防除および農作業安全について講義を行った。その後、藤田普及指導協力員のかき園に移動し、摘蕾の実演を行いながらポイントの説明を行い、受講生全員で「刀根早生」の摘蕾に取り組んだ。受講者からは「施肥のタイミングについて学びたい。せん定技術の受講が楽しみ」などの意見があった。引き続き、かきの栽培技術を学びたい受講者に対し技術指導を行う。



座学の様子



摘蕾の現地研修の様子

2. 令和5年度伊都地方農業士連絡協議会総会、研修会の開催

4月11日、九度山町ふるさとセンターにおいて、令和5年度伊都地方農業士連絡協議会総会及び研修会を開催した。開会にあたり、辻重光会長が挨拶を行い、続いて来賓の岡本章九度山町長、紀北川上農業協同組合村田昌隆代表理事専務、伊都振興局澤井農林水産振興部長から祝辞があった。続いて退任した農業士および新規認定者の紹介を行った。総会には、会員ら38名の出席があり、全ての議案が原案どおり可決、承認された。研修会では、粉河税務署溝本達也氏らから、「インボイス制度について」と題して講演があった。出席した農業士らは熱心に聞き入り、その後、内税と外税の違いによる対処方法、インボイス発行事業者を解除する場合等について質問があった。

当課では、今後も関係機関と連携し、農業士会活動の支援を行っていくとともに、今回の講演が、より一層、伊都地域の農業経営の発展につながる事を期待する。



開会挨拶（社会長）



研修会の様子

3. クビアカツヤカミキリ予防対策（食入防止）のネット被覆実証

伊都地域における令和5年3月末までの累積被害状況は、かつらぎ町では205地点・944本、橋本市では142地点・342本、九度山町では2地点・2本、と広範囲にもも・すもも・うめ・さくらでの被害（幼虫食害によるフラス：木くずと虫糞が混ざった）が増加している。

4月24日、かつらぎ町で被害が発生した2箇所のもも園において、果樹試験場かき・もも研究所が予防対策の現地実証試験のため、試験樹を各園5本設定した。

園主および近隣の生産者、かつらぎ町の担当職員が参集し、株元から主枝・亜主枝の主要な部分を下部から包帯を巻くように巻き上げ、ステーブラーで固定することで幼虫の侵入を予防する防除対策方法を学んだ。今後も引き続き関係機関と連携し、防除対策に取り組む。



予防用ネット被覆作業

4. 農業技術講習会野菜コース（夏秋野菜の栽培管理）の開催

4月27日、農業水産振興課では、就農意欲があり基礎技術を習得したい方への技術・経営力向上のため、夏秋野菜の栽培技術をテーマにした講習会を開催し、15名が受講した。

はじめに、当課の山田主査から、病虫害防除の基礎を説明し、農薬取締法の遵守および農薬の防除効果等から使用する農薬の選び方、農薬の保管や散布方法等の取り扱いについて指導した。次に、主に夏や秋に収穫できる野菜の管理作業として、トマト、なす、かぼちゃ、スイートコーン、オクラ等を中心に各品目別の特徴、栽培管理、主要病虫害防除等のポイントについて講義を行った。その他、農作業安全として、体調管理や農業機械の取り扱いに関する注意点について説明した。

受講者からは「展着剤の効果を知れてよかった」「元肥や有機質肥料とはなにか、もっと基本的な単語についての説明があるとうれしい」などの意見があった。

当課では、今後とも果樹コースや野菜コースに分けて、農業経営の基礎技術を学びたい生産者に対し、研修を通じて技術指導を行っていく。



講習会の様子

IV 有田振興局

1. 令和5年度有田地方農業士協議会総会を開催

4月14日、有田振興局において、有田地方農業士協議会が総会を開催した。新型コロナウイルス感染症対策のため出席者は、各市町の農業士37名に限定した開催となった。

当日は、令和4年度事業経過報告と収支決算報告、令和5年度事業計画(案)と収支予算(案)、役員改選(案)が原案どおり承認され、新会長に武内啓和氏が就任された。研修会では、里地・里山振興室から「有田・下津地域の石積み階段園みかんシステム 世界農業遺産認定に向けた取り組み」のほか、2題について説明があり、出席者は熱心に聞き入っていた。



新旧役員のあいさつ

2. うめ「南高」の摘心処理講習会を開催

4月19日、JAありだウメ部会(西 建一氏)が農業水産振興課協力の下、有田川町中井原のうめ園で新梢の摘心処理の講習会を会員及びJAありだ営農指導員25名を対象に実施した。

摘心処理は4~5月に、約20cmに伸長した新梢を10cm程度残して摘心することで結果枝の増加が図られ増収効果が期待できる上、冬季のせん定作業が省力できる技術である。

城村普及指導員が講師を務め、電動バリカンを用いて摘心の実演をしながら説明した。

摘心処理は、今年から開始する樹及び処理3年目の樹で行った。処理3年目の樹では、昨年摘心した処理枝にたくさんの果実が着生しており、令和4年産の収量は処理前の1.4倍に増加していた。部会員の中にはすでに電動バリカンを購入し摘心処理を実践する会員もあり、また電動バリカンの購入を検討している会員もいることから、地域に技術が浸透しつつあることが窺えた。

当課では今後もJAありだと連携して、うめの生産安定につながる摘心処理技術の導入推進に向けて普及活動に取り組んでいく。



講師による摘心処理の実演

3. 有田農業女子プロジェクト・アグリビギナー合同研修会を開催

有田管内の女性農業者及び就農して間もない農業者が、農業に関する知識や技術の向上と交流を図ることを目的とした「有田農業女子プロジェクト・アグリビギナー合同研修会」を、4月19日に果樹試験場で開催し、9名の参加があった。

研修会では、果樹試験場環境部直川副主査研究員、松山研究員から「カンキツの病害虫について」の講習、また、栽培部中地部長・栽培部研究員から「カンキツの接ぎ木について」講習を受けた後、実習を行った。

出席者のほとんどが接ぎ木の経験があまりなく、穂木を削る作業にも時間がかかったが、全員が実際に接ぎ木の作業を終えることが出来た。

出席者は「穂木と台木の品種間で相性の良し悪しがあるのか」等、熱心に質問していた。また、「初めて接ぎ木を行い力の加減が難しかった」などの声が聞かれた。



参加者による接ぎ木の実習

4. 令和5年度有田地方4Hクラブ連絡協議会総代会及び技術交換大会を開催

4月25日、有田振興局において令和5年度有田地方4Hクラブ連絡協議会総代会が開催され、各市町から4Hクラブ員19名が出席した。

当日は、令和4年度事業経過報告と収支決算報告、令和5年度事業計画（案）と収支予算（案）が原案どおり承認されるとともに、役員改選が行われ、新会長に有田市4Hクラブの辻本真希氏が就任した。

総代会終了後に開催された技術交換大会では、クラブ員が農業分野から出題されたペーパーテストに挑戦し、日頃の活動で身に着けた知識を競い合った。

採点の結果、団体の部では有田川町4Hクラブ、個人の部では有田川町4Hクラブの谷端航平氏が1位に輝いた。

本年度の事業計画案としてスポーツ交流会や研修会などが出されており、農業水産振興課では、クラブ員の意見を踏まえ、今年度の活動支援を行っていく予定である。



総代会



技術交換大会

V 日高振興局

1. 日高地方農業士会令和5年度総代会を開催

4月14日、日高地方農業士会（会長：平林孝郎氏）は、令和5年度総代会を開催し会員41名の出席があった。

議事に入る前に、令和4年度新規認定農業士の紹介を行った。

議案審議では、令和4年度事業報告、収支決算報告及び令和5年度事業計画（案）、収支予算（案）ともに原案のとおり承認された。また、役員改選が行われ、日高川町の指導農業士清水俊夫氏が新会長に選ばれるなど、新役員、理事が選出された。

総代会終了後、振興局職員より「和歌山県みどりの食料システム基本計画に基づく認定制度」「強い経営体育成支援事業」について説明を行った。出席者からは「花きは食料ではないが、みどりの食料システム事業の対象になるのか」等、質問があった。



新規認定農業士紹介



新役員あいさつ

2. うめ「南高」の低樹高化技術による省力化現地研修会を開催

農業水産振興課では、うめ研究所、JA紀州等と連携し、うめ「南高」の低樹高化技術（カットバック処理）による青梅生産性の向上に取り組んでいる。

4月20日と、25日に梅生産者を対象とした摘心処理（1次）の現地研修会をみなべ町と日高川町の2地区で開催した。（20日：参加者6名、25日：参加者11名）

行森普及指導員から、参加した梅生産者に対して充電式電動バリカンによる摘心処理の方法を実演指導した。参加者からは「簡単な処理で収量が増えるなら試してみたい」といった意見が多く聞かれた。

今後は、摘心処理（2次）講習会を5月下旬に、カットバック処理及びせん定講習会を11月下旬頃に開催する予定である。



摘心処理講習会（日高川町）

3. 青年農業者能力向上実践講座「農トレひだか」第1回セミナーを開催

4月25日、日高地方4Hクラブ連絡協議会（会長：尾曾 匠氏）と日高振興局農林水産振興部主催の「農トレひだか」第1回セミナーが開催され、計33名の出席があった。

まず、全国農業青年交換大会 in 福岡の参加報告を振興局職員が行った後、第61回全国青年農業者会議において農林水産大臣賞を受賞したプロジェクト発表「ニホンミツバチを守り梅産業を次世代へ！」について、みなべ梅郷クラブの中井貴章氏から講演があった。続いて、今年度のわかやま農業経営塾（旧わかやま農業MBA塾）についての概要説明を振興局担当から行った後、昨年の受講生であるみなべ梅郷クラブの山本秀平氏より、受講の感想や意義などの説明を行った。また、情報提供として振興局職員より「和歌山県みどりの食料システム基本計画に基づく認定制度」について説明を行った。

出席者からは中井氏の講演を聞いて「地域を巻き込んだ活動で発表は非常に分かりやすい構成であった」や山本秀平氏の受講談については「MBA塾を受けた感想や、得られたものなど受講者本人から聞くことができよかった」等、意見が聞かれた。



中井氏の講演



山本氏の受講談

4. えんどう採種ほ場現地検討会を開催

4月27日、日高野菜花き技術者協議会（会長：濱田光弘氏）による「えんどう採種ほ場現地検討会」が開催され、12名が出席した。

この検討会は、毎年4月下旬に日高地域の主要農産物であるエンドウ類の種子安定供給を目的に、本協議会員であるJA紀州、暖地園芸センター、日高振興局ら職員とJA紀北かわかみ、県農、伊都振興局ら職員、採種生産者であるJA紀北かわかみ採種部会員、及び関係機関である県農業試験場、果樹園芸課ら職員とで実施している。

当日は、橋本市の採種ほ場6園地を巡回し、えんどう類の生育状況の確認を行うとともに、巡回後にはJA紀北かわかみマルガク総合選果場で意見交換を行った。

出席者からは、「今年は病害虫の発生もなく、生育もきれいに揃っている」、「今年の草勢は良く、生育が旺盛になっている」等の意見が聞かれた。なお、意見交換では、高品質な種子を生産するため、生育確認の状況をふまえ、今後の管理方法について検討を行った。



採種ほ場巡回（橋本市）



意見交換会（マルガク総合選果場）

VI 西牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【持続的なうめ産地の発展】

～うめの摘心講習会を開催～

うめ「南高」の摘心栽培による着果安定を目的として、4月19日に上富田町岡、28日に田辺市芳養町で摘心処理講習会を開催し、生産者35名とJA紀南営農指導員2名が参加した。

農業水産振興課の竹中普及指導員が、摘心処理を4月下旬と5月下旬の2回行うことで、結果層が増えるとともに、せん定作業の省力化が期待でき、充電式電動バリカンを用いることにより時間短縮できることを紹介した。垂主枝や側枝の背面から発生した新梢の先端部分の処理方法を実演するとともに、数人の生産者に体験してもらった。参加者からは「摘心処理により徒長枝が減少し、せん定やせん定枝を処分する労力の軽減につながりそうなので導入を検討したい」との感想があった。



電動バリカンを体験する参加者（上富田町）

2. 西牟婁地方農業士連絡協議会が総会・研修会を開催

4月18日、西牟婁地方農業士連絡協議会（会長：谷本喜久氏）は、県情報交流センターBig・Uにおいて、会員及び行政関係者等約50名が出席のもと、総会並びに研修会を開催した。

本年度は役員改選により、家高 勇氏が会長に就任し、会員は144名となった。

研修会は、3月末に定年となった元指導農業士の中道昭人氏から、これまで自身が取り組んできた農業経営の紹介があった。また、日本政策金融公庫和歌山支店の秋元課長代理から各種公庫資金の紹介、果樹試験場栽培部の中谷主任研究員から極早生温州みかん「YN26」の日焼け果発生状況と対策及びカンキツ新品種「あすみ」、「あすき」の特性について講演があった。

会員からは、「先駆的に梅の6次産業化に取り組んで苦労した点」や、「新品種の果実の成熟期が2月以降とのことだが、寒さ対策はどうしているのか」等の質問があった。



農業士総会（会長挨拶）

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 田植え体験を開催

4月27日、MYNS 営農組合（下阪殖保代表）、JAみくまの及び農業水産振興課は、近畿大学附属新宮中学校1年生（33人）を対象に新宮市熊野川町の水田（10a）で田植え体験を開催した。この田植え体験は、生徒達に水稻の作り方や米食に関心を持ち、その重要性を伝えること目的とし、平成29年から実施している。

代表挨拶の後、村畑普及指導員が和歌山県の農業や水稻の栽培について説明を行った。続いてJA職員や団体メンバーらが苗の植え方を指導した。生徒全員が横一列に並び1人4条程度を植えた。

生徒は、おそろおそろ水田に入っていたが、最後は、楽しく田植えをおこなった。収穫した米は、近大附属中学校の文化祭で販売される予定である。



普及指導員による説明



田植え体験

Ⅷ 農林大学校

1. 令和5年度入学式 11名の学生生活が始まる

4月7日に入学式を行い、園芸学科11名が入学した。式辞で小畑校長は「これから2年間、本校での様々な学びや学生生活を通じて、農業に関する専門知識や技術だけでなく、社会人として求められる能力を身に付け、本県農業を担うリーダーに成長していただきたい。「学ぶ姿勢」「社会や人との円滑な関係の構築」「目標を持つ」の3点を心がけて頑張ってください」と新入生を激励した。

また、新入生代表の栗名達史さんが「農業の基礎知識や栽培技術、経営能力の習得や様々な資格取得に努力したい。自ら考え、自ら行動できる立派な社会人となるよう全力で学生生活を送ることを誓います」と述べた。

学生は、今後、講義や実習に加え、先進農家や試験場等での研修を行っていく。



小畑校長の式辞



宣誓する新入生代表

2. 1年生が県内の試験研究機関など（9か所）で研修

1年生（11名）は、県内における農林業に関する最新の研究内容や事業内容について学ぶため、4月20日～21日にかけて、県内農林業関係の試験研究機関等（果樹試験場かき・もも研究所、農業試験場、林業試験場、農林大学校林業研修部、果樹試験場うめ研究所、農業試験場暖地園芸センター、農林大学校就農支援センター、果樹試験場）、中田食品株式会社を訪問した。

研修先では、現在取り組んでいる研究内容や事業内容等について説明を受け、その後、ほ場や施設の見学を行った。学生は「いちごの授粉にミツバチ以外を使うことはないのか」、「害虫はどんなものがあるのか」等熱心に質問し、メモをとっていた。まだ入学して間もないが、2日間寝食を共に過ごすことで、相互の親睦や連帯感が深まり、有意義な研修旅行となった。



育種ほ場の見学（かき・もも研究所）



台木の説明（果樹試験場）

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4919
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489